

# 日釣振だより

題字は小淵恵三氏 筆

## JAPAN SPORTFISHING FOUNDATION

2025.2. 特別号

### 淡水魚はなぜ減ったのか ～全国河川の水質調査及び生物調査より～ ネオニコチノイド系農薬を含む化学物質の影響について

公益財団法人 日本釣振興会  
淡水魚減少対策 PT

#### 緒言

5年程前から、公益財団法人 日本釣振興会（以下「当会」という。）内部の役員より、「10数年前から、近くの河川でよく釣れていたオイカワやウグイ、鮒等がめっきり釣れなくなった。何が原因なのだろう」という声が時折出ておりました。その様な事もあって、当時、当会の環境委員会が主体となり

① 2019年1月 筑波大学医学医療系助教（獣医師） 升秀夫先生

講演テーマ：「農薬が日本の釣りを駆逐する！」

② 2020年2月 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 山室真澄先生

講演テーマ：「魚はなぜ減った？～見えない真犯人を追う」

以上のようなテーマで、横浜、大阪で二回のシンポジウムが開催されました。

その頃から、「淡水魚が大幅に減少しているが、その要因は何なのか」という話題が数多く出るようになりました。その結果、2022年11月の当会常任理事会で、当会の主要な設立目的である①魚族資源の保護増殖、②自然環境の美化保全、③日本の健全な釣り振興からも、この問題を徹底的に解明していく事が当会の責務であるという事を、当会役員内でも共通の想いとして共有を致しました。

その後、2023年2月の全国地区支部長会議でも、全国の河川における淡水魚減少の現状認識を受け、全会一致で当会本部の中に、「淡水魚減少検討プロジェクト（委員長：常見英彦副会長 ※現会長）」が開設されました。「淡水魚減少検討プロジェクト」は、途中その問題の大きさから、「淡水魚減少対策プロジェクト」に名称が変わり、ほぼ毎月会議が開催され、2024年12月現在で18回開催をしております。

#### 活動内容

その間、主たるものとして下記のような活動を行ってまいりました。

① 世界・日本における魚類を含む生態系、自然環境に大きな影響を及ぼす情報や、文献、資料の収集を行いました。



公益財団法人 日本釣振興会  
最高顧問 高宮俊諦